

新潟市スポーツ推進計画

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画

〈平成28年度実施事業〉

進行管理調書

－ 目次 －

1	健康スポーツ・・・P1～2	スポーツ振興課	/	P3～5	関係課
2	競技スポーツ・・・P6	スポーツ振興課	/	P7	関係課
3	みるスポーツ・・・P8～9	スポーツ振興課	/	P10	関係課
4	支えるスポーツ・・・P11～12	スポーツ振興課	/	P13～14	関係課
5	スポーツ情報ネットワーク スポーツ医科学支援体制・・・P15	スポーツ振興課	/	P16	関係課
6	区ビジョンまちづくり計画・・・			P17～21	区

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成28年度実施事業 進行管理調書

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている
2・・・概ね取り組まれている
1・・・より積極的な取り組みをお願いする
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)			理由・原因	理由・原因	新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)		
			H28数値目標 予算額(単位:千円)	H28実績 決算額(単位:千円)	達成度				理由・原因	事業の方向
1	新潟シティマラソン	10月9日(日)、榎谷小路や萬代橋など本市の中心市街地や信濃川、日本海などを望む日本陸連公認コースで、フルマラソン・ハーフマラソン・10キロの3種目を開催。種目ごとのエントリー数は、フルマラソン6,122人(定員6,000人)、ハーフマラソン2,569人(定員2,000人)、10キロ4,765人(定員4,000人)であり、いずれも目標数値を上回った。	エントリー者数 12,000人	エントリー者数 13,458人	A	平成29年度の新コース開催を控えているため大きな変更は行わなかったが、開門閉鎖時間を変更するなどランナーの走りやすさの向上に取り組んだ。	1	平成29年度からは、開催日を体育の日に移し、デンカビッグスワンスタジアム前発～市陸上競技場着の新たなコースで制限時間も延長(フルマラソン5時間→7時間)、さらに魅力ある大会とすることで、一層の参加者拡大を目指す。	3	・順調に進んでいる ・新コースの動向に注目したい
2	新潟シティマラソン 新コースの策定	【新コースの概要】 デンカビッグスワンスタジアム前をスタート、途中萬代橋や榎谷小路、信濃川沿いに加え新潟みなとトンネルを走り、市陸上競技場をフィニッシュとするコース。なお、単調で評価が芳しくなかった海岸コースは縮小した。 【新コースの策定】 平成27年度に策定した素案をベースに沿道住民などの合意形成、関係機関からの承認を得て新コースの策定に至る。	新コースの策定	新コースの策定	B	平成27年度の素案に基づき沿道住民への説明会や事業所の戸別訪問などにより合意形成を図るとともに、関係機関との調整、承認を得て新コースを策定した。	6	策定した新コースで35回目となる平成29年度大会を開催する	3	所管課の評価に異論なし
3	少年少女スポーツ大会	児童の健全育成や親睦、コミュニケーション能力の育成を図ることを目的として、昭和40年より開催している。	エントリーチーム数 野球:73チーム サッカー:77チーム ミニバス:145チーム バレー:30チーム	エントリー数 野球:75チーム サッカー:81チーム ミニバス:144チーム バレー:27チーム	B	参加チームについては、ほぼ例年の実績数ではあるが、夏に行う大会として定着し、次代を担う青少年の心身の健全育成を図っている大会となっている。	1	少子化などの影響と思われるがその年により参加チーム数に変動はあるものの、実行委員会と連携を図りながら、親しむ・楽しめる大会となるよう実施していく。	3	順調に取組みを行っている
4	早起き野球大会	早起き野球を通して、市民が積極的にスポーツに親しみ、スポーツ振興と相互の親睦を図ることにより豊かな社会生活に寄与することを目的に開催した。 【第51回早起き野球大会】 期日:平成28年5月22日～7月24日 会場:ハードオフエコスタジアム新潟 外11会場 参加チーム数:163チーム	エントリーチーム数 185チーム	エントリーチーム数 163チーム	C	エントリーチーム数については本市は日本一であるが、その他トップ4の他市も含めて年々減少傾向にある。	2	参加チームの増加につながるようアンケートを実施し、競技方法の変更するなど大会運営の改善に反映させる。	3	順調に取組みを行っている
5	新潟シティライド	自転車を有効に活用して市民の健康の維持・増進とサイクルスポーツの普及・促進を図ることを目的として、市内をサイクリングしながらエイドステーションで新潟ならではの食を堪能できるイベントを開催した。 平成28年6月5日(日) ロングライド(120km)・ショートライド(33km)	エントリー者数 ロングライド:550人 ショートライド:100人	エントリー者数 ロングライド:603人 ショートライド:104人	A	ロングライド、ショートライドともに申込受付開始から数十分で定員に達し募集を締め切ることとなり、人気の高さを伺うことができた。	1	初心者向けのショートライドを経験した参加者の次のステップアップとして、ロングライドでは距離が長すぎるという要望に応えるため、ミドルライド(70km)を新設し、より魅力のあるイベントにする。	3	事故や交通ルールに関する苦情についての対応をより強化して欲しい
6	新潟ヒルクライム	岩室地域の魅力を全国に発信し、交流人口の拡大を図るとともに、サイクルスポーツの振興を目的として、岩室温泉をスタートし弥彦山スカイラインを麓から頂上まで自転車で駆け上がりタイムを競う競技会を開催した。 平成28年9月4日(日) 距離7.6km	エントリー者数 500人	エントリー者数 505人	A	競技性が強いイベントではあるが、カテゴリー(年齢区分等)を多く設定することで、老若男女が楽しめる競技会として、多くの参加があった。	1	西蒲区役所や岩室温泉観光協会との連携を強め、岩室地域の魅力を発信できる仕掛けづくりに努める。	3	西蒲区役所や岩室温泉観光協会と連携をより密にして欲しい

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成28年度実施事業 進行管理調書

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている
2・・・概ね取り組まれている
1・・・より積極的な取り組みをお願いする
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価<第1次評価>				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価<第2次評価>				
			H28数値目標	H28実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価		
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)							
7	氷上スポーツ体験学習推進事業	新潟市アイスアリーナで小学生に氷上スポーツを体験させることで氷上スポーツ愛好者の底辺拡大を図るため、市内小学校の校外活動時のバス送迎に係る経費と施設利用料金を助成した。	実施校数 70校	実施校数 55校	D	実施時期について、アンケートで体調管理しやすい時期の実施を望む声があったため、早い時期に事業を開始したことや、大規模校、特別支援学級のある学校は、日程を分割して実施することも可能としたため、数値目標を下回ったが、平成27年度より増加した。	1	29年度の周知時期は28年度と同様にし、事業開始を5月1日から早めること、引き続き日程の分割も行き、実施の機会を増やしていく。	1	・体育の授業に組み込むといいが、校外活動にとどまっているのが現状であり、競技のきっかけづくりにして欲しい。前のスケートリンクでは中学校の先生向けのスケート教室があった。 ・より積極的な取組みをお願いする	
			3,600	2,003							
8	市民綱引き大会 (体育協会)	冬期間のスポーツとして、綱引きを通じて地域スポーツの振興と市民相互の親睦を図るとともに冬場の健康維持・増進を目的に気軽に参加できる種目として開催した。 ・一般の部(混成の部) ・小学生の部(高学年の部、低学年の部)	エントリーチーム数 一般の部:16チーム 小学生の部:50チーム	エントリーチーム数 一般の部:17チーム 小学生の部:45チーム 参加者数 633人	B	地域間の交流や冬場の運動不足解消を目的に冬期間のスポーツイベントとして開催している。参加チームは、地域で活動しているスポーツ団体などが主体である。参加チームの大半は開催1~2か月前から練習に取組み活動している。	1	参加者は市内全域を網羅しており、地域間の交流としては当初の目的は達成している。更に充実した大会となるようスポーツ少年団等への実技指導などを行い普及・振興に努める。	3	子どもが参加して、その子どもについてくる親のチームも参加して、非常に盛り上がっている。	
			320	320							
9	健康・体づくりのつどい (体育協会)	「体育の日」に家族そろって楽しめる健康・体づくりのイベントを開催し、運動の習慣化を目指し開催した。	参加者数 2,000人	参加者数 2,250人	A	かけっこ教室や逆上がり教室、体力測定など市民ニーズに対応した“楽しく・気軽に”参加できるイベントを開催することができた。また、スポーツ少年団区対抗たすきリレーマラソンでは、区や種目を越えた交流の場となっており、少年団活動の普及・振興にも繋がっている。	1	市民参加型のイベントとして、より一層魅力あるイベントにするため、職員の特技・特性を生かした内容について検討して充実を図る。	3	市民ニーズに即した事業が展開されている	
			1,300	1,196							
10	市民サッカー大会 (体育協会)	生涯スポーツの普及と市民相互の親睦を図り、健康の維持増進を目的に、サッカー大会を開催している。	エントリーチーム数 100チーム	エントリーチーム数 87チーム 参加者数 1,250人	C	近年は参加者・チーム数は横ばいであるが市民が参加しやすいフレンドリーな大会となっている。市民の健康づくりとスポーツの振興に貢献していることから、当初の目標はほぼ達成している。	2	市民参加型のイベントとして、より一層魅力あるイベントにするため、クラス分けや参加しやすいルール等内容を検討し、事業の充実を図る。	2	人数の関係でチームがなかなか組めないような現状にあるが、これをフットサルに転換するなど、より多くの方が参加できるように検討して欲しい	
			760	760							
11	市民総合体育祭 (体育協会)	春季と秋季の年2回、体育協会加盟団体がスポーツの普及振興と競技力向上を目的に開催をしている。	開催種目数 春季:18種目 秋季:25種目	開催種目数 春季:22種目 7,939人 秋季:36種目 9,868人	A	市民総合体育祭を主管する加盟競技団体と連携し、市民の健康増進と競技力の向上が図れた。	1	市民総合体育祭の開催により競技の普及・振興がなされ本市の競技力向上に繋がっている。	3	新しいスポーツに対する対応をお願いしたい	
			1,310	1,230							

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成28年度実施事業 進行管理調書

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H28数値目標 予算額(単位:千円)	H28実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
1	シニアはつらつにいがた 総おどり事業 (高齢者支援課)	「総おどり体操」について、体験会の開催や指導スタッフの派遣を実施するとともに、希望者を募りにいがた総おどり等に参加することで、高齢者が健康づくり・介護予防・生きがいを気軽に取得する機会を提供した。また、指導者養成講座を開催し、市民による自主的な広まりを推進した。	体験会等参加者数 延7,108人	体験会等参加者数 延5,604人	D	区によって体験会の参加者数やスタッフ派遣の回数にばらつきがあり、目標よりも低い数値となった。 会場によっては、募集してすぐ定員に達する場合もあり、広い会場の確保が課題。	2	健康づくり等への関心が薄い方への普及を図るため、関係機関・団体との協力を一層強化して活動を進めていく。 指導者養成講座によりライセンスを取った方の活動の場を広げる方法を検討していく。	
2	全国健康福祉祭事業 (高齢者支援課)	新潟市予選会で選出された選手に対し、全国健康福祉祭ながさき大会に参加するための派遣に関する費用の助成を行い、参加者の費用負担を軽減した。	派遣人数 163人	派遣人数 92人	D	サッカー(定員20名)をはじめ、人数の多いチームが辞退したため、目標よりも低い数値となった。 開催地が遠く、新潟市から距離がある場合に参加が減少する傾向がある。	2	予選会を主催している新潟県社会福祉協議会と協議しながら、予選会の参加種目を増やすなど、より多くの高齢者の参加につながるよう周知していく。	
3	いきいき健康づくり 支援事業 (保健所健康増進課)	9月末に従来の教室型を終了し、11月から実施方法をライフスタイル型にして、事業を再スタートした。 一人ひとりの目的に応じた運動プログラム(有酸素運動+筋トレ)を提供し、無理なく安全に運動の継続ができるよう支援した。	参加者数 1,000人	参加者数 809人	D	リニューアル前からの参加者は、教室型の希望が多く、継続参加者は556名と少なかった。 また、参加には専用歩数計の購入・使用が必要で働く世代の参加には障壁になっている。	3	歩数計の価格引き下げ、スマホアプリ活用の検討を行い、働く世代も参加しやすい内容に見直しをしていく。	
4	新潟市障がい者大運動会 (障がい福祉課)	障がいのある方もない方も一緒にスポーツを行うことを通じ、親睦と友情の輪を広めながら「共に生きる喜び」をわかちあい、障がいや障がいのある人への理解を深めるため「新潟市障がい者大運動会」の開催準備に取り組んだ。	実施	雨天中止	B	開催日の前々日から天候が不安定で、当日の朝まで開催の判断を引き延ばしたが、結果的には参加者の体調を考慮し、雨天中止と判断した。予定通り開催できる準備を行っていた。	2	より多くの人に参加してもらうため周知を行う。	
5	新潟県障がい者 スポーツ大会開催事業 (障がい福祉課)	新潟県とともに全国障害者スポーツ大会の派遣選考大会である「新潟県障害者スポーツ大会」を開催した。	実施	個人競技:6種目 (820人参加) 団体競技:5種目 (35チーム225人参加)	B	障がいのある人が参加できるスポーツ大会が少ない中で、日頃のスポーツトレーニングの成果を競い合う良い機会となっている。	2	参加者が年々減少傾向にあるため、大会の周知を行いながら、今後も引き続き大会を開催する。	
6	学校施設開放事業 教育委員会 (地域教育推進課)	生涯スポーツの振興を図る目的に、学校教育に支障のない範囲で、市立の学校施設等(体育館、武道場、プレイルーム等)を開放する。	166校で実施 (小106・中56・東特別・明鏡高)	166校で実施 (小106・中56・東特別・明鏡高) ※小学校2校閉校のため	B	学校施設を開放し、市民の健康増進と競技力の向上が図ることができた。	2	学校施設を開放することにより、市民の健康増進と競技力の向上に繋がっているため。	

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成28年度実施事業 進行管理調書

基本方針	健康スポーツ・生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成	B・・・指標とおり達成	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
C・・・指標を少し下回った	D・・・指標を大きく下回った	4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
E・・・未着手		7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H28数値目標 予算額(単位:千円)	H28実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
7	体力向上ジャンプアップ 推進事業 教育委員会 (学校支援課)	市内全小・中学校の取組みを学校部に集約し、冊子にまとめ、全小・中学校に配付した。他校の取組みを知ることで、自校の取組みの改善に生かすことにつながった。	全ての小・中学校の取組みを学校別に集約し、情報提供	市内全ての小・中学校の取組みを学校別に集約し、情報提供	B	計画通り実施できたため。	2	各校の取組みを共有することで、取組みの見直しにつながるから。	
8	子供の体力向上指導者養成 研修会への体育教員派遣 教育委員会 (学校支援課)	スポーツ省主催の研修会に、市内幼稚園、小・中学校から3名の教員を派遣した。研修後、派遣した教員が指導者となり、市内全小学校、市内の中学校(30人以上)を対象に伝達講習会を実施した。	幼稚園、小・中学校から3名の教員を派遣	幼稚園、小・中学校から3名の教員を派遣	B	計画通り実施できたため。	2	新学習指導要領全面実施に向けて、新学習指導要領の理解を深めるために必要であるから。	
9	幼稚園運動遊び 指導者研修会 教育委員会 (学校支援課)	8月に市内幼稚園の教員25人を対象に、派遣した教員が指導者となり、市内全小学校(各校1名)、市内の中学校(30人以上)を対象に伝達講習会を実施した。	対象者20人 (8月開催)	参加者25人 (8月開催)	B	計画通り実施できたため。	2	学習指導要領に即した授業実現のために、このような実技講習会は有効であるから。	
10	小学校体育指導者 研修会 教育委員会 (学校支援課)	スポーツ省主催の研修会に派遣した教員が指導者となり、市内全小学校の受講者に伝達講習会を実施した。	対象者:1回目53人 (北区、東区、中央区、江南区から各校1名) 2回目55人 (秋葉区、南区、西区、西蒲区から各校1名)	各校1名、計108人	B	計画通り実施できたため。	2	学習指導要領に即した授業実現のために、このような実技講習会は有効であるから。	
11	中学校保健体育指導者 研修会 教育委員会 (学校支援課)	スポーツ省主催の研修会に派遣した教員が指導者となり、市内全小学校の受講者に伝達講習会を実施した。	対象者28人 (北区、東区、江南区、秋葉区の学校から各校1名)※中等含む	北区、東区、江南区、秋葉区の学校から各校1名に加え、希望者。計30人	B	計画通り実施できたため。	2	学習指導要領に即した授業実現のために、このような実技講習会は有効であるから。	
12	中学校柔道実技講習会 教育委員会 (学校支援課)	市内全中学校から各校1名参加し、講習会を実施した。	対象者57人 (各校1名) ※中等含む	市内中学校各校1人、計57人※中等教育学校含む	B	計画通り実施できたため。	2	学習指導要領に即した授業実現のために、このような実技講習会は有効であるから。	

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成28年度実施事業 進行管理調書

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H28数値目標 予算額(単位:千円)	H28実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
13	各種スポーツ教室の 開催・充実 (市開発公社)	体育施設での子ども水泳教室、親子水泳教室、親子体操教室、子ども体操教室、中高齢者向け健康教室など、子どもの体力向上プログラムから生活習慣病予防や高齢者の健康増進・運動のきっかけづくりを目的とした各種スポーツ教室を開催した。	教室数:1,305教室 延べ参加者247,000人 (市開発公社主催分)	教室数:1,269教室 延べ参加者234,202人 (市開発公社主催分)	C	H27年度施設使用料改正に伴う教室参加料設定の変更等により伸び悩んだ前年度の参加者状況を勘案し、教室カード発行による申込手続きの簡素化など、新たな取り組みによる参加者増を期待したが目標値に至らなかった。しかし、前年度対比では延べ参加者数は101.1%と微増となっている。	2	H29年度から昨年度発行した教室カードに割引ポイントが付与される仕組みを新設することで、運動継続のモチベーション向上につなげる。 教室プログラムの見直しなど、より一層魅力のある事業としての充実を図り、市民の健康増進へとつなげたい。	
14	体育施設の託児所の 設置充実 (市開発公社)	子育て期の保護者の健康増進を支援するため、一部体育施設のスポーツ教室時などに参加者向けに臨時的に開催した。	4施設 18教室 参加者数 70人 (市開発公社主催分)	4施設 18教室 参加者数 38人 (市開発公社主催分)	C	2年連続で新潟市庭球場での保育サービス実施を予定したが、申し込みが得られなかった。西海岸公園市営プール、亀田総合体育館でも軒並み参加者数が半減したことから、当初目標を下回った。 東総合スポーツセンターにおいては、当初目標を上回る申し込みも得られており、一定の需要はあるものと思われる。	2	一定の需要が見込まれる施設については事業を継続するものとし、子育て期の保護者が気軽にスポーツ教室に参加できるサービスを提供する。	

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成28年度実施事業 進行管理調書

基本方針	競技スポーツ: 競技力の向上を推進します。
基本目標	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている
2・・・概ね取り組まれている
1・・・より積極的な取り組みをお願いする
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価<第1次評価>					新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価<第2次評価>		
			H28数値目標	H28実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
1	ジュニア強化事業 (体育協会)	新潟市から世界へ羽ばたく選手を育成するため、加盟競技団体と連携し、ジュニア世代(小・中・高校生)を対象とした強化事業を実施した。	ジュニア強化事業数 27団体 氷上スポーツ育成事業数 3団体 ジュニアアスリート育成事業数 2事業	・ジュニア強化事業数 27団体 ・氷上スポーツ育成事業数 3団体 ・にいがたスーパージュニア育成事業数 2事業	B	ジュニア強化事業については、計画どおり27団体について実施した。平成28年度より新規で実施した「にいがたスーパージュニア育成事業」では、ボクシング、柔道の2種目について、新潟市から将来オリンピック等で日の丸をつけて活躍する選手輩出を目指し、通年で年10回程度オリンピック等の国際大会で活躍した選手やコーチを招聘した。また、カーリング、アイスホッケー、フィギュアの氷上育成事業においても、国内外で活躍する選手や講師を招聘した。	1	にいがたスーパージュニア育成事業については、1年目の成果を検証し、東京オリンピックを1つの目標として継続して実施していく。 27団体におけるジュニア強化事業及び氷上スポーツ育成事業においても、ジュニア層の競技力向上を目的に競技団体と連携を図り実施する。	3	順調に取り組まれているので、引き続き実施して欲しい。
2	スポーツ指導者講習会 (体育協会)	本市の競技力の向上を図るため、ジュニア強化に携わる指導者や関係者など市民を対象とした講習会を開催した。	講習会開催数 2回 120人	講習会開催数 1回 70人	C	ナショナルトレーニングセンターより講師を招き、講習会を実施した。昨年のアンケートから市民ニーズの高い栄養学を実施し、参加人数も昨年と比べ大幅に増加した。一方で、年複数回の実施も検討したが、講師多忙のため実現しなかった。	2	年に複数回実施してほしいという要望が強く、一貫したテーマで年複数回の実施について検討する。 内容については、指導者のニーズを調査しながら検討する。	2	テーマについては、受講者のニーズに沿ったものを選択すべき。改善されているので、評価は「2」
3	国際大会等出場者激励金	本市を代表して国体及び海外での国際大会に出場する選手、監督等に激励金を支給し、また、全国大会に出場する小中高生に対しても激励金を支給した。	国体出場者 200人 国際大会出場者 10人 小・中・高校生 全国大会出場者 500人	国体出場者 (冬季含む) 226人 国際大会出場者 9人 小・中・高校生 全国大会出場者 559人	A	ジュニア強化事業などにより、国体や全国大会(小中高生)の出場者が増えたため目標を上回った。	3	昨年度に続き今年度も大幅に目標を上回った。今後も継続して運用していくために、制度の見直しをおこなっていく。 ※「制度の見直し」 制度は継続するが、金額等運用面で見直しを検討	3	・実績としては順調 ・「制度の見直し」について明確にしたうえで、引き続き取り組んで欲しい

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成28年度実施事業 進行管理調書

基本方針	競技スポーツ:競技力の向上を推進します。
基本目標	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H28数値目標	H28実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)					
1	全国障がい者スポーツ大会選手派遣事業 (障がい福祉課)	平成28年10月に開催された第16回全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」へ新潟市代表として選手を派遣した。	実施 10,118	個人競技 18人 団体競技1団体(10人) 11,138	B	昨年に引き続き、当初見込んでいなかったバレーボールチーム(女子)が北信越・東海ブロック予選会を勝ち上がり、全国大会へ出場することができた。	2	個人競技の派遣選手について固定化の傾向にあるため、新たな選手の育成・強化など全体の底上げが必要である。	
2	全国障がい者スポーツ大会選手強化事業 (障がい福祉課)	全国障害者スポーツ大会に派遣する選手を対象とした練習会を開催するとともに、団体競技において強化指定チームへの支援を行った。また、新たな選手の育成に向け各種スポーツ教室を開催した。	実施 3,065	練習会の開催(58人) 指定強化チームの支援(11チーム) 3,065	B	練習会において専門的な指導を行うことで競技力向上が図られた。また、強化指定チームに強化費を助成することで大会遠征や継続的な活動が行われている。	2	個人競技では全国大会で大会新記録を達成した選手や団体競技では予選会を勝ち上がり全国大会に出場できる競技が出てくるなど選手強化の成果が表れており、引き続き取り組みを行っていく。	
3	障がい者スポーツ全国大会参加激励金支給 (障がい福祉課)	国や公共団体等が主催する障がい者全国大会等の参加者に激励金を支給。	実施 262	個人 20人 団体 4団体 295	B	全国大会へ参加する者の負担を軽減し、積極的な社会参加を促している。	2	引き続き激励金の支給し、支援を行っていく。	

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成28年度実施事業 進行管理調書

基本方針	みるスポーツ:みる機会、交流機会の拡大を図ります。
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに、地元プロスポーツチームとの連携を推進し、トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し、ふれあいや地域の交流を促進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている
 2・・・概ね取り組まれている
 1・・・より積極的な取り組みをお願いする
 0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H28数値目標 予算額(単位:千円)	H28実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
1	ドキドキ・ワクワクスポーツふれあい促進事業	プロスポーツチームを通じて、夢と感動を共有し、青少年の心身の健全育成とスポーツ文化の醸成を図るため開催した。 1. サッカー教室開催 1回目 期日:平成28年6月1日 会場:デンカスワンフィールド 2回目 期日:平成28年10月10日 会場:デンカスワンフィールド 2. サッカー指導者派遣 期日:平成28年5月25日～11月23日 67回 会場:デンカビッグスワンスタジアム外 3. サッカー観戦招待 期日:平成28年4月30日～平成29年3月11日まで16試合 会場:デンカビッグスワンスタジアム 4. 野球観戦招待 期日:平成28年8月11日～13日 会場:HARDOFF ECOスタジアム新潟 5. 男子・女子バスケットボール観戦招待 期日:平成28年11月19日～平成29年3月26日まで試合 会場:新潟市東総合スポーツセンター	サッカー観戦招待者数 14,620人 サッカー教室参加者数 350人 サッカー指導者派遣数 182人 野球観戦招待者数 60組 バスケットボール観戦招待者数 134組	サッカー観戦招待者数 27,387人 サッカー教室参加者数 263人 サッカー指導者派遣数 191人 野球観戦招待者数 197組 バスケットボール観戦招待者数 118組	A	サッカー観戦招待は、対象試合数の増加やインターネットでの申込者に対して事前に試合に係る連絡を電子メールで通知する等の効果的な周知により目標者数を上回る参加を得ることができた。	2	県及び聖籠町の支援状況を注視しつつ、現状の事業を継続して行う。	3	・ニーズは多いので、受ける方はメリットを感じている ・目標数値の設定については、検討を要する
			18,100	17,868						
2	プロ野球招致推進事業	官民が一体となった「プロ野球新潟招致委員会」により、プロ野球公式戦を招致し、観戦招待事業や、横浜DeNAベイスターズのラミレス監督のトークショーを開催した。 平成28年6月14日(火) 横浜DeNAベイスターズvs北海道日本ハムファイターズ(交流戦)	プロ野球公式戦開催数 1試合	プロ野球公式戦開催数 「横浜vs日本ハム」 1試合	B	ハードオフ エコスタジアム新潟のオープン以来、一定数のプロ野球公式戦を招致・開催しており、新潟でプロ野球を楽しむ環境が整い、多くの県民が観戦することができた。	2	プロ野球公式戦の開催実績を重ねるとともに、観戦招待事業をはじめとする興行支援を行い、機運の醸成を図りながら将来的な球団誘致も視野に入れるとともに、交流人口の拡大、地域活性化につなげていく。	1	・今の状況が厳しいのはわかるが、複数回の開催を望む ・チームとの関係構築にも取り組むべき ・地元出身選手の活躍が機運醸成に繋がる
			800	933						
3	第40回日米大学野球選手権大会の開催(新規)	文化・スポーツコミッションと連携を図り誘致した、日米の大学選抜チームによる対抗戦を開催した。 第1戦 平成28年7月12日(火) ハードオフ エコスタジアム新潟 第2戦 13日(水) 〃 第3戦 神宮球場 第4～5戦 静岡草薙球場	観戦者数 10,000人(2試合)	観戦者数 8,500人(2試合)	C	一流の選手によるハイレベルな試合を間近に観る機会を提供するとともに、交流人口の拡大に寄与した。 第1戦は6,000人の観客数を記録したものの、第2戦は悪天候で2,500人となった。	6		3	5試合の平均観戦者数約4,000人を悪天候のなかで上回っているので評価できる。
			12,000	7,800						
4	大会、合宿等誘致の推進	国際・全国規模の大会や、2018年平昌冬季、2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前・直前合宿の誘致につなげるため、ナショナルチームの合宿を誘致した。 実施主体 新潟市文化・スポーツコミッション ショートトラックスピードスケート H28.5.23～6.18 女子硬式野球 H28.6.24～26	国際大会2 全国大会7 ナショナルチーム合宿3	ナショナルチーム合宿2	D	大会の誘致は実現しなかったが、ナショナルチームの合宿の開催により、新潟市の知名度の向上、スポーツを通じた交流の推進や地域経済の活性化を図ることができた。	1	新潟市のスポーツ環境を海外に向けて発信・PRする冊子やホームページを制作するなど誘致活動を推進し、市内での合宿実績を積み上げることにより、今後のオリンピック・パラリンピック直前合宿や国際・全国大会の誘致・開催につなげる。	1	競走が激しいなかにおいては、新潟アサヒアレックスアイスアリーナでの大学アイスホッケーなど、ターゲットを絞って集中して招致に取り組むべき
			9,000	7,278						
5	第99回日本陸上競技選手権大会の開催	(H27単年度事業)		(H27単年度事業)		(H27単年度事業)		(H27単年度事業)		

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成28年度実施事業 進行管理調書

基本方針	みるスポーツ:みる機会, 交流機会の拡大を図ります。
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに, 地元プロスポーツチームとの連携を推進し, トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し, ふれあいや地域の交流を促進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている
 2・・・概ね取り組まれている
 1・・・より積極的な取り組みをお願いする
 0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価<第1次評価>				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価<第2次評価>			
			H28数値目標 予算額(単位:千円)	H28実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
6	氷上スポーツイベント 開催事業	新潟市アイスアリーナにおいて, 村主章枝さんや今井遥選手, 県内選手によるフィギュアスケート演技発表会を行い, トップアスリートの演技に触れる機会を提供し, フィギュアスケート, アイスホッケー, カーリングの教室・体験会を行い, 氷上スポーツを行うきっかけとなるイベントを開催した。 平成29年3月5日(日) 新潟アサヒアレックスアイスアリーナオープン3周年イベント	参加者数 610人	参加者数 584人	C	周年記念イベントとして, 氷上スポーツの普及を促進するイベントを開催できた。アイスホッケー, カーリングの体験会において参加者が定員を満たなかった。	2	引き続き, 市民が氷上スポーツを行うきっかけとなるイベントを開催します。アイスホッケー, カーリングの体験会については, 内容や周知方法を工夫し, 参加者数が増えるよう努める。	1	・体験会の開催頻度について, 月1回くらいで企画を考えて増やして欲しい ・目的は利用者を増やすことなので, 目的に合致する内容で実施して欲しい
7	オリンピックムーブメント 事業	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて市内の機運醸成を図るため, オリンピックムーブメントの普及・啓発を目的としたイベントを開催した。 実施主体 新潟市文化・スポーツコミッション オリンピック教室 平成28年10月14日(金)(白新中学校) オリンピックデラン 平成28年10月15日(土)(デンカビッグスワン)	参加者数 1,500人	参加者数 デラン 317人 教室 白新中2年生 (70名)	D	オリンピック教室については, オリンピアンによる自身の経験に基づいたオリンピック精神を学ぶ機会を提供することができた。オリンピックデランについては, 募集期間が夏休みと重なったこともあり, 参加者が定員を満たなかった。	2	オリンピックムーブメントの普及・啓発はもとより, オリンピックに向けた市内の機運醸成から今後の外国からの観光客の誘致や国際大会等の誘致に向けた取り組みにつなげる。	1	・実施する以上は他の開催都市をライバルと想定して, 積極的に参加者を増やすべき。 ・もっとオリンピックらしいアピールをすべき。
8	国際ユースサッカー in新潟の開催	国際サッカーイベントを通じたスポーツ交流により, 各国青少年の相互理解及び国際友好親善を深めるとともに, 新潟を国内外に大きくアピールした。 平成28年7月16日(土)~18日(月) デンカビッグスワンスタジアム 他	観戦者数 6,000人(3日間)	観戦者数 4,000人(3日間)	C	出場選手からは多くのA代表選手が選出されており, 2020東京オリンピックに向けての注目度が高まっている。	2	ユースのトップチームによるレベルの高いゲームを本市を含む県内各地で開催することにより, サッカー機運の醸成及び地区サッカー協会の運営能力の向上に大きな役割を果たしている。 ※昭和63年からの全国ユースサッカー大会を前身とし, 平成9年より「国際ユースサッカーin新潟」として毎年開催し, 平成28年度で20回目を迎えた。	2	・実績が減少した理由を明確にし, 反省点として次年度に活かして欲しい ・開催地を増やすとか, 小学生を無料にするとか, より多くの人に見てもらおう工夫も必要 ・自己評価にはいつから始めた事業なのか, 加えるべき。
9	日韓交流少年サッカー の開催	日韓の小学生世代における国際交流と競技力の向上を目的に開催し, 韓国蔚山市サッカー協会と新潟市サッカー協会の相互交流が図られている。 平成28年7月30日(土)~31日(日) 韓国・ウルサン市	交流回数 1回	交流回数 1回	B	28年度は新潟市の選手が韓国・ウルサン市を訪問しサッカー交流を行った。	2	今後も相互交流を続けることを両協会が確認した。 ※平成12年から始め, 平成28年度で14回目を迎えた。	2	・評価は前年同様 ・この事業を機会として, サッカーに留まらない交流を展開すべき ・自己評価にはいつから始めた事業なのか加えるべき

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成28年度実施事業 進行管理調書

基本方針	みるスポーツ:みる機会, 交流機会の拡大を図ります。
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに, 地元プロスポーツチームとの連携を推進し, トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し, ふれあいや地域の交流を促進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H28数値目標	H28実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)					
1	2016年第6回スペシャルオリンピック日本冬季ナショナルゲーム・新潟の開催支援(新規) (障がい福祉課)	(H27単年度事業)		(H27単年度事業)		(H27単年度事業)			
2	国士館大学男子新体操部演技発表会 (市開発公社)	国内最高レベルの男子新体操演技発表を通じてスポーツの素晴らしさ・楽しさを味わっていただくとともに, 普段体育施設を利用されない方にも施設に足を運ぶ機会を設けることでスポーツ振興へ繋げることができた。	観覧者数 1,500人 ※消防の届出上, 観客の上限が1,500人とされたため, 前年において目標値を修正	観覧者数 1,559人	B イベント後のアンケートでは、「満足」と「やや満足」を合わせて99%強と非常に高い満足度が得られた。また, 次回観覧を希望する方も前回同様98%となっている。はじめての観覧者が全体の48%, 3回以上の複数回観覧者が31%と本イベントが恒例行事として定着してきている。	2 施設収容人数から, 現在の観覧者数設定が最大値となっており, これ以上の増加は望めない。アンケートからも好評を博しているイベントであるため, 演技種目等内容の趣向を凝らし更なる充実を図る。			
			1,538	1,423					

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成28年度実施事業 進行管理調書

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている
2・・・概ね取り組まれている
1・・・より積極的な取り組みをお願いする
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)					新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)		
			H28数値目標	H28実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
1	スポーツ施設の管理運営・整備	スポーツの普及振興を図り、市民の健全な発達と明るく豊かな市民生活の形成に寄与するため、本市が設置するスポーツ施設の管理運営を行う。また、スポーツ施設の運営が円滑に行われるよう必要な補修工事を行う。 【H28工事実績】 ・豊栄総合体育館テニスコート人工芝張替え工事 ・東総合スポーツセンター空調設備改修工事 ・新潟市陸上競技場散水ポンプ改修工事 ほか	施設利用者数 3,700,000人	施設利用者数 4,135,012人	A	平成27年4月の改正により、施設使用料を全市的に統一され、回数券や定期券が同種の施設で相互に利用できることや、高齢者の割引料金などが定着し、すべての区において、前年度に比べ利用者が増加している。	2	市民の健全な発達と明るく豊かな市民生活のため、スポーツ施設の管理運営及び必要な補修工事を行う。	3	・スポーツ施設の利用者が増えていることは実感している ・今後も継続して欲しい
			2,356,390	2,360,282						
2	スポーツ施設の整備・改修方針の検討	昭和39年開催の新潟国体に合わせて整備された施設など老朽化が進んでいる施設もあり、大規模な改修や更新、施設の集約化を計画的に行う必要があることから、スポーツ施設の整備・改修方針の検討を行う。	整備・改修方針の検討	実施	B	整備・改修方針の検討を行った。	2	今後のスポーツ施設の改修について、基幹施設のほか緊急性を有する施設などを考慮し、改修計画策定の取り組みを行う。	2	個人が利用する施設にするのか、大きな大会が開催できるような施設にするのか、まちづくりの中でスポーツ施設がどうあるべきかを検討して欲しい
			0	0						
3	スポーツと音楽功労者表彰事業	スポーツと音楽芸能の振興及び発展を目的に、功績が顕著な個人または団体を表彰している。 表彰数:スポーツ関係463件(H29.3.31現在)	実施	実施 (スポーツ関係8人)	B	市体育協会を通じ競技団体などからの推薦に基づき、スポーツ・音楽功労者選考会議に諮り、適正に表彰を行なった。	2	今後も、本市のスポーツと音楽芸能の振興及び発展に尽くした功労者を表彰し、スポーツを支える環境づくりを進める。	3	順調に取り組まれている
			480	341						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成28年度実施事業 進行管理調書

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている
2・・・概ね取り組まれている
1・・・より積極的な取り組みをお願いする
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H28数値目標	H28実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
4	スポーツ推進委員の活動推進	地域スポーツの推進役となるスポーツ推進委員の資質向上を図ることを目的に研修会を開催した。	研修会開催数 2回	研修会開催 2回	B	自主研修会、新年研修会と年2回の研修会を開催することができた。	2	スポーツに対するニーズの多様化により、推進委員には求められる知識や技能の向上が不可欠である。資質向上に繋がるよう一層の支援に努める。	2	推進委員として活動・参加している人が限られているので、各区の地域課とよく検討し、メンバー入れ替えなども視野に入れて欲しい
			0	0						
5	スポーツ振興会の育成・支援	スポーツ振興会の中心的役割を担うマネージャーの育成と資質向上のため研修会を開催した。	研修会開催数 1回	研修会開催 1回	B	スポーツ活動における地域コーディネーターとしての役割について学び、スポーツ振興会マネージャーの育成に有意義な研修会となった。	2	さらに充実した研修会が開催できるようカリキュラムの構成を検討し、実施していきたい。	2	各地域課との連携をより密にして欲しい
			0	0						
6	スポ柳都にいがた指導員養成研修会	ジュニア層の指導者の養成・資質向上のため、研修会を開催した。本研修会修了者を少年少女スポーツ大会の指導者資格の一つとしている。	参加者数 100人	参加者数 70人	C	例年3月に開催していたが、少年少女スポーツ大会に参加するチームにとってより効果的な研修会となるよう開催時期を6月に変更するため、今年度は市体育協会主催の研修会(ジュニア選手向けの栄養学)と共催とした。	2	実績のある講師を迎えるなど、魅力があり資質向上のための一助となる研修会となるよう内容を検討していく。	2	指導者の資質が問われているため、引き続き継続して行って欲しい
			15	22						
7	スポーツボランティアの育成	10月9日(日)に開催した新潟シティマラソンにおいて、ランナー受付や給水、記録証発行等に従事するボランティアを一般公募し、合計65人の応募があった。	シティマラソンボランティア公募数 100人	シティマラソンボランティア応募数 65人	D	ボランティア募集について、市報にいがた、公式ホームページ等で広報しているが、リピーターの割合は多いものの底辺拡大につながっていない。また、平成28年度からは、企業ボランティアを募り、少人数ではあるが従事してもらった。	3	今後も、学生や企業など団体からの応募を得られるよう各所へ働きかけていく。	1	中学生などの学生に体験してもらうなど、より積極的な取り組みをお願いする
			0	0						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成28年度実施事業 進行管理調書

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成 C・・・指標を少し下回った E・・・未着手	B・・・指標とおり達成 D・・・指標を大きく下回った	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他
---	-------------------------------	---

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H28数値目標	H28実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)					
1	スポーツ少年団の育成 (体育協会)	スポーツ少年団の普及育成および活性化を図るため、登録業務や大会等を実施した。	実施 135	実施 (登録団体116) 21	B	登録団数の増減については、少子化による団の消滅や統合があり減少した一方で、スポーツ施設の少年団料金が設定されたことで、新規登録が増加して横ばいとなった。	2	スポーツ少年団活動は、地域におけるスポーツ活動の拠点として、スポーツの普及振興、青少年の健全育成に役立っている。少年団活動が今後も活性化するよう、大会等を継続実施していく。	
2	スマートウエルネスシティ講演会 (スマートウエルネスシティの推進) (保健所健康増進課)	スマートウエルネスシティを広く市民に周知することを目的とし、市民向けの講演会を実施した。	参加者数 400人 1,671	参加者数 250人 1,592	D	東区プラザを会場に藤波辰爾氏を講師に開催した。プロレスに興味のない世代からの参加がなかったが、日頃の保健事業には参加しない人が参加していた。	3	健康意識の向上を目的に継続実施する。また、健康寿命延伸アワードの表彰式もあわせて開催していくため、開催時期を3月に変更する。	
3	健康マイレージ (スマートウエルネスシティの推進) (保健所健康増進課)	健康づくり行動への動機づけと継続を支援するインセンティブ制度。健康づくりに関する講演会やイベント、また体育施設で実施するスポーツ教室等に参加した際に景品の抽選に応募できるシールまたはスタンプを付与した。	応募口数 20,000口 1,800	応募口数 29,081口 1,728	A	体育施設個人利用も対象としたことで、応募数が増加した。また、シールスタンプに有効期限がないことで、H27年度からためていた人が応募できていた	3	にいがた未来ポイントとの差別化が必要、また、体育施設利用者(健康づくり実践者)の応募が多数であり、きっかけづくりの要素を強めるために、実施期間を区切りキャンペーン化していく。	
4	未来ポイント (スマートウエルネスシティの推進) (保健所健康増進課)	健康づくり行動への動機づけと継続を支援するインセンティブ制度。健康づくりに関する講演会やイベント、また体育施設の個人利用で、市共通商品券またはバス乗車ポイントに交換できる「未来ポイント」をバスICカードやおサイフケータイに付与した。	参加者数 10,000人 8,595	参加者数 6,652人 9,599	D	いきいき健康づくり支援事業で歩数に応じたポイント付与を開始、健康分野のポイント倍増など魅力アップに努めたが、目標に届かなかった。1,000ポイントにならないと利用できないことも参加につながらない一因と思われた。	3	500ポイントから利用できるように利便性を向上させる。また、地域商店街のポイントカードへの交換も行っていく。	

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成28年度実施事業 進行管理調書

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H28数値目標	H28実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)					
5	公共交通の強化及び利用促進 (スマートウェルネスシティの推進) 都市交通政策課 新交通推進課	新バスシステムの段階的な機能向上により、過度な自動車利用から公共交通利用への転換を図り、公共交通利用による外出機会の増加を促す施策を展開する。	実施 406,292	実施 397,780	B	【都市交通政策課】 ◇モビリティ・マネジメントの推進 ◇公共交通利用促進サイトの運営 ◇「シニア半わり」の本格実施 【新交通推進課】 ◇専用走行路社実験の実施 ◇第2期導入区間の調整・検討 ◇各施設の機能向上 ◇新バスシステム事業評価委員会の運営	1	【都市交通政策課】 ◇モビリティ・マネジメントの推進の一環として、小学校での出前講座の実施 ◇公共交通の利用促進サイトの充実 ◇「シニア半わり」の更なる拡充 【新交通推進課】 ◇第2期導入区間の調整・検討 ◇PR活動の強化 ◇各施設の機能向上 ◇新バスシステム事業評価委員の運営	
6	歩行空間の整備 (スマートウェルネスシティの推進) (まちづくり推進課)	地域活性化総合特別区域「健幸長寿社会を創造するスマートウェルネスシティ総合特区」の特区期間終了により、これを契機とした予算事業は無し。	- 0	- 0	B	地域活性化総合特別区域「健幸長寿社会を創造するスマートウェルネスシティ総合特区」の特区期間終了により、これを契機とした予算事業の計画が無かったため。	6	地域活性化総合特別区域「健幸長寿社会を創造するスマートウェルネスシティ総合特区」の特区期間の終了により、これを契機とした予算事業は完了。	
7	自転車利用環境の整備 (スマートウェルネスシティの推進) (土木総務課)	歩行者の安全確保、自転車の交通事故の削減、自転車利用の促進を目的に、自転車走行空間の整備や駐輪場の整備、自転車利用ルール・マナーの啓発を推進した。	・自転車走行空間整備の延伸 ・古町、万代地区の駐輪場増設 ・自転車利用ルール、マナーの啓発のための市報掲載1回、学校等へのチラシ送付2回 226,106	・走行空間整備(13.6km) ・駐輪場整備(100台) ・HP(2回)及びツイッター(6回)による啓発活動 182,491	B	自転車走行空間整備及び駐輪場整備は、当初の目標を達成した。またHP及びツイッターを活用し、自転車利用ルール・マナーの啓発及び新設駐輪場などのPRを行った。	1	自転車走行空間整備及び駐輪場整備を引き続き推進していくほか、自転車利用ルール・マナーの啓発活動の充実を図る。	

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成28年度実施事業 進行管理調書

基本方針	スポーツ情報ネットワーク・スポーツ医科学支援体制 :スポーツ情報ネットワークとスポーツ医科学支援体制を充実します。
基本目標	スポーツ情報の発信に努めるとともに医科学支援体制の充実を図ります。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている
2・・・概ね取り組まれている
1・・・より積極的な取り組みをお願いする
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H28数値目標	H28実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
1	目指せオリンピック! 医科学サポート事業 (新規) (体育協会)	にいがたスーパージュニア育成事業の実施にあわせてスポーツトレーナー等を派遣し、傷害予防やコンディショニング調整を目的に競技力の向上を図った。	スポーツトレーナー派遣競技団体数2団体以上	2団体 ボクシング 柔道	B	ジュニア強化指定選手を対象に傷害予防・コンディショニング調整ができ競技力向上に繋がった。	1	オリンピックや国際大会等に出場・活躍する選手の輩出に向け、ボクシング・柔道のジュニア強化指定選手を医科学面で更にサポートし好成績に繋げる。	1	まだ活用が進んでいないので、評価は「1」 県の医科学センターを有効に活用すべき
			500	500						
2	公共予約システムの運用	市民がいつでも気軽にスポーツ施設を利用できるよう、インターネットによる施設予約システムの充実・運用を図る。 ・スマートフォンサイトの開設(H28.3.1)	システム利用割合(申込のうちオンライン予約の割合) 25%	22.1%	B	オンライン予約者数は前年より微増しているが、母数となる施設利用件数がそれ以上に大きく増加しているため。	2	市民の利便性のため、施設予約システムの運用を継続し、周知に努める。	3	順調に取り組んでいる
			0	0						
3	スポーツ振興課ホームページ	スポーツに関する施設、大会・イベント、団体などの情報について、市民への情報提供を行う。	アクセス数 240,000件	アクセス数 1,000,083件	A	大会・イベントなどの情報を随時更新し、市民への情報提供を積極的に行った。	2	ホームページを活用した市民への情報提供を継続する。	3	順調に取り組んでいる
			0	0						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成28年度実施事業 進行管理調書

基本方針	スポーツ情報ネットワーク・スポーツ医科学支援体制 :スポーツ情報ネットワークとスポーツ医科学支援体制を充実します。
基本目標	スポーツ情報の発信に努めるとともに医科学支援体制の充実を図ります。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H28数値目標		H28実績		理由・原因	理由・原因	
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因			取組状況評価
1	体力測定&メニュー作成 (市開発公社)	筋力・柔軟性・持久力などを測定し評価するとともに、その結果から個人に応じた運動プログラムを作成し、提供した。	8施設 400人	8施設 368人	C	新潟市保健所の事業である「健幸サポート」が充実し、お客様に周知されてきた。そちらを選択する方が増加したことも考えられる。	2	無料で測定評価及びトレーニングメニューを作成することで体育施設利用の促進へと繋げ、市民の健康増進の一助とする。 トレーニング機器を有する施設以外への拡大実施については、物理的な課題も残るため検討が必要。	
			無料	無料					
2	スポーツメディカル カウンセリング (市開発公社)	体育施設において、スポーツによる怪我や痛み等の悩みに専門の医師、理学療法士が問診・指導を行った。	1施設 10人	1施設 28人	A	新潟市が直営で行っていたスポーツ維持相談事業を引き継いだもの。 スポーツ専門医や理学療法士による問診・指導を無料で得られることで好評を得ている。H28年度は亀田総合体育館のみでの開催となった。	2	スポーツ専門医や理学療法士による問診・指導を無料で受けられる機会を通じ、個人が生涯スポーツを継続できるよう支援を行う。	
			無料	無料					

区ビジョンまちづくり計画(第1次実施計画掲載事業 報告書)

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

北区

事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
		H28数値目標 予算額(単位:千円)	H28実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
生涯スポーツの振興事業	総合型地域スポーツクラブの事業(スポーツ教室、各種イベント等)や区体育協会、地区スポーツ振興会、スポーツ少年団等の事業を、区内体育施設で実施した。	北区内体育施設延べ利用者数 391,000人	北区内体育施設延べ利用者数 419,453人	B	多様なニーズに合わせた各種スポーツ教室・イベントを区内体育施設で開催したことで、施設利用者の増加につながった。	1	今後も市民ニーズを見極めた事業展開を図る必要がある。	
北区総合スポーツ大会	これまでの競技別大会(12種目)、スポーツ体験会(6種目)に加え、より気軽に参加でき楽しめるスポーツアトラクション(鬼ごっこ、わくわくチャレンジコーナー)やフロアカーリング交流戦を実施した。	参加者数 1,800人	参加者数 1,817人	B	競技別大会は、他の大会と重なり実施できない競技があり参加者が減少したが、新たな取り組みであるスポーツアトラクション等が好評だったため、ほぼ指標のとおり達成できた。	1	これまでの事業に加え、さらに多くの区民が参加し易いように大運動会(仮称)を開催し、地域間・世代間交流を図るとともに区の一体感醸成を図る。	
健康づくり対策事業	(H25～27区づくり事業)		(H25～27区づくり事業)		(H25～27区づくり事業)		(H25～27区づくり事業)	

東区

事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)		
		数値目標 予算額(単位:千円)	実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
スポーツイベント事業	スポーツ振興会やスポーツ推進委員との連携を図り、区民がスポーツに親しめる環境づくりを進めるため、夏に気軽に参加できるウォーキングイベントを企画し、冬に冬期大運動会を開催した。	実施 404	・東区市民ウォーク「ほっくほくウォーク」(7/3開催予定であったが、雨天中止) ・東区冬季大運動会実施(2/5) 172	B	気軽に区民が参加できるイベントを企画し、ウォーキングイベントには202名が参加を申込み、冬季大運動会には439名が参加した。	2	スポーツ推進委員やスポーツ振興会と密な連携を図り、区民が気軽に参加できるイベントを継続して実施する。	
生涯スポーツ支援事業	生涯スポーツ活動を支援し、スポーツ推進委員、スポーツ振興会、との連携を図りながら、区民がスポーツに親しめる環境づくりを進めるため、スポーツ振興会へ新潟市スポーツ振興会補助金を交付した。	実施 1,200	6スポーツ振興会に補助金を交付 1,200	B	補助金を全スポーツ振興会へ交付することにより、地域のスポーツ普及に貢献しているスポーツ推進委員やスポーツ振興会と連携を図ることができ、区民がスポーツに親しめる環境づくりの一助となった。	2	今後も補助金の交付によるスポーツ振興会への支援を実施し、より密な連携を図りながら、地域のスポーツ活動を推進する。	
体育施設の管理運営	指定管理者との連携を図りながら、子どもから高齢者まで誰もが気軽に体育施設を利用できるよう体育施設の管理・運営を行った。	実施 305,056	指定管理者と連携し、東総合スポーツセンターなど区内の体育施設の管理・運営を実施 305,056	B	毎月各施設館長とミーティングを行い、施設の状況や利用状況などを情報共有し、誰もが気軽に利用できるよう施設の利用環境整備に努めた。	2	割引率の高い長期定期券や高齢者の利用料割引制度の導入により、利用者は増えている。さらに利用を促進するために、指定管理者と情報共有を図りながら、適切な管理・運営を行う。	

参考

区ビジョンまちづくり計画(第1次実施計画掲載事業 報告書)

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

中央区

事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
		H28数値目標 予算額(単位:千円)	H28実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
中央区 えんでこ(まち歩き)事業	中央区の見どころを市内外の方々から「まち歩き」で楽しんでもらうことで、区の魅力への関心を深めてもらうとともに、「まち歩き」ファンを増やすことで市街地の活性化を図った。	まち歩き参加者数 800人	まち歩き参加者数 769人	C	申込者数は目標参加者数を上回っていたが、参加者都合によるキャンセルや天候によるキャンセルなどがあり、目標を下回った。	1	さらに多くの方から「まち歩き」の楽しさを知ってもらうため、新たなコースの増設などさらなる拡充を図る。	
		1,800	1,115					

江南区

事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)		
		数値目標 予算額(単位:千円)	実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
「区づくり事業」 健康は自分でつくる 宝物の推進	身近に取り組めるスポーツとして、ランニングのセミナーを開催した。また「フロアカーリング」の体験会を区内各地で行い、大会を開催するなど、誰でも気軽に取り組めるニュースポーツの普及を行った。 ※区づくり事業は平成27年度で終了。平成28年度以降はスポーツ振興管理運営事業として、引き続き実施。	ランニングセミナーやウォーキング等のセミナーの実施 ・フロアカーリング体験・研修会・大会開催 参加者数 1,000人以上	ランニングセミナー参加者:174人 ・フロアカーリング体験・研修会・大会参加者:409人 合計583人	C	平成28年度は区づくり事業としての実施を終了し、内容・方法を見直しての実施となった。フロアカーリングでは平成27年度に行った大商業施設での体験会が行えず、目標に届かなかった。	7	ランニングセミナーはアンケートでは高い満足度であり、平成29年度もご意見を反映させて引き続き実施する。フロアカーリングについても、競技人口が増えつつあり、継続して取り組む人を増やすためにも継続する。	
江南区健康ウォーク	江南区の魅力を感じる田園や梨畑、小阿賀野川の風景を楽しむコースを他区のウォーキングとも連携し、誰でも気軽に参加できるイベントとして開催した。	第10回江南区健康ウォークの実施 参加者数 332人以上	参加者数 212人	C	参加申込数は定員以上となったが、安全を考慮し、参加者数は定員までとしたため、前年度以上の参加者数(332人)には達しなかった。	1	平成28年度はコースを一部変更したが、より一層魅力あるイベントにするため、平成29年度も内容の充実を検討する。	
江南区スポーツ施設の 管理運営事業	指定管理による江南区内体育施設(亀田総合体育館・横越総合体育館・亀田運動広場・かわね公園グラウンド)の運営を通じた教室の開催など、スポーツに親しめる環境づくりを行った。	施設年間利用者目標 538,515人以上	亀田総合体育館:401,927人、横越総合体育館:110,346人、亀田運動広場:31,621人、かわね公園グラウンド:20,355人 合計564,249人	A	前年度から人数を大幅に増やすことができたとともに、指定管理者とも情報共有を徹底できた。	1	平成29年度は更なる利用者の拡大として、年間利用者600,000人を目標とする。利用者が使いやすいような施設になるよう指定管理者と情報共有を徹底し、より良い環境づくりに努める。	
地区スポーツ振興会 補助事業	江南区内7スポーツ振興会、10の地区に対し補助金の交付を行った。	補助金の交付 ・地区スポーツ振興会(東亀田・西亀田・大江山・曾野木・東曾野木・両川・横越)	地区スポーツ振興会(東亀田・西亀田・大江山・曾野木・東曾野木・両川・横越)へ補助金を交付した。	B	江南区内において、各地区のスポーツの振興をスポーツ振興会を通して普及することができた。	2	平成29年度も各地区における健康づくりのためスポーツ振興会へ補助金を交付する。現在江南区が推奨しているフロアカーリングに取り組んでもらうなどニュースポーツの普及も行ってもらう。	
区体育協会連携事業	区体育協会加盟団体を通して激励金制度等の啓発を行った。子どものスポーツ団体を紹介したほか全国大会へ出場した選手などを称えるスポーツ表彰式を開催した。	区内スポーツ少年団等紹介案内を作成、設置 ・スポーツ表彰式の開催 ・国際大会等激励金制度の啓発	区内スポーツ少年団等紹介案内を作成、設置 ・スポーツ表彰式の開催 ・国際大会等激励金制度の啓発	B	子どものスポーツ意欲を伸ばす取り組みに力を入れた。また、ジュニアスポーツクラブの紹介を冊子やホームページで行い、スポーツ人口拡大に向けての取り組みができた。	2	今後も区体育協会加盟団体と協力し、スポーツをする人の拡大を図る。	
学校グラウンド等の 有効活用検討	地域のスポーツ振興のため、廃校となった酒屋小学校のグラウンド等の有効利用について、地元やスポーツ団体と検討・協議し、要望のあったグラウンドの貸付を行った。	前年度結果を受け、取り組みの実施	学校のグラウンド等の状況調査 ・財産状況等の再確認 ・地元との協議・検討	B	スポーツ少年団の活動、地域のコミュニティ広場などとして活用されており、目標達成している。	2	廃校施設を活用し、地域のスポーツ振興、地域コミュニティの活性化に寄与した。今後も引き続きグラウンドの貸付を行うなど地域のスポーツ振興を図る。	
		0	0					

区ビジョンまちづくり計画(第1次実施計画掲載事業 報告書)

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

秋葉区

事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
		H28数値目標 予算額(単位:千円)	H28実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
総合体育館管理運営	あきはKCKライフパートナーズを指定管理者とし、施設の管理運営を円滑に行った。区内スポーツ団体の利用はもちろんのこと、充実した自主事業の開催を通して、区内のスポーツ振興に貢献した。	スポーツ活動の振興	総合体育館利用者数 130,978人	B	平成28年度の年間利用者数は130,978人と対前年比134%増という結果となった。	1	秋葉区内のスポーツ振興の中心的施設として、各種大会を積極的に誘致し、また、指定管理者による充実した自主事業を開催することで、区民の競技力向上や体力づくり・健康寿命の増進に貢献する。	
		57,180	57,180					
スポーツ大会開催事業	秋葉区スポーツ大会開催事業補助金を交付し、区民スポーツ大会を開催しました(20団体・63大会)。	区民スポーツ大会の開催	実施団体数:20団体 大会数:63大会 総参加者数:9,529人	B	述べ10,000人近くの区民が各種大会に参加し、秋葉区のスポーツ振興に貢献した。	2	加盟団体の強化発展と相互融和を図り、区民の体力向上並びにスポーツの普及推進の強化に努めるため、引き続き補助金を交付し、活動を支援していく。	
		1,900	1,900					
地区スポーツ振興会補助事業	区内のスポーツ振興会(10振興会、13小学校区)に補助金を交付し、その活動を支援しました。	地区スポーツ振興会活動の支援	振興会数:10振興会 (13小学校区分)	B	各スポーツ振興会は、交付された補助金により、スポーツ教室や大会、レクリエーション活動を実施することで、地区住民の健康増進や親睦を図ることができている。	2	区内のスポーツ・レクリエーション活動の普及発展を図るため、引き続き補助金を交付し、活動を支援していく。	
		1,300	1300					
各種教室開催事業	秋葉区レクリエーション事業を6事業行いました。	生涯スポーツの普及	総参加者数:1,081人	B	各種事業により、区民の健康づくりや趣味づくりに貢献した。健康ウォーキングでは、コース等の改善により、前年度より参加者の満足度が向上し、参加者数も過去最多となった。	3	区民が気軽に参加でき、より一層満足できるイベントとなるよう引き続き内容を検討する。健康ウォーキングについては、他区を参考にスポーツ推進委員やスポーツ振興会との連携を図るなど、一部内容を見直したい。	
		433	433					
新津カップ開催事業	新潟県少年サッカー5年生大会を開催しました(平成28年10月22日・23日)。	事業開催	参加チーム数: 24チーム	B	県内のサッカー少年に技術習得の機会とチーム間の交流の場を提供するとともに、2日間で約1,500人もの観客の来場や特別番組の放送などにより秋葉区のスポーツ振興と地域の魅力の発信に繋がった。	2	今後も県内のサッカー少年に技術習得の機会とチーム間の交流の場の提供することにより、選手の個々のレベルアップを図るため、大会実行委員会として適切に運営する。	
		1,000	1,000					
少年野球教室開催負担金	少年野球教室を開催しました(平成28年12月23日)。	野球教室開催	参加者数: 区内小学生140人	B	プロ野球選手を講師に迎え、毎年開催している。子どもたちが実際にプロ野球選手に触れることで、野球の楽しさを体感できるとともに、投球・捕球の基本を教わり、スキルアップを図ることができた。	2	区内小学生の野球のレベルアップを図るため、引き続き実施していく。	
		372	372					

区ビジョンまちづくり計画(第1次実施計画掲載事業 報告書)

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

南区

事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
		H28数値目標	H28実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
		予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)					
ひととまちを元気にする 生涯スポーツ	指定管理者が実施するスポーツ教室などの自主事業や施設の管理状況、利用者の獲得等について、定期的に会議を行い指導、助言を行った。	248,905	248,905	A	使用料の改定における利用者数の減少が一部の施設に見られるが、白根総合公園屋内プールの利用者が伸びてきており、全体的に利用者の増加につながった。	2	生涯スポーツだけでなく、他課とも連携しながら健康づくりに役立てる施設として、利用者の意見を聞きながら施設利用の促進に努める。	
	健康づくりにつながる各種のスポーツイベントを開催し世代間交流や地域間交流を進め、活動を支援した。 ・ウォーキング大会の開催 参加申込者数160人以上 ・フロアカーリング大会の開催 年2回開催 参加申込者数350人以上 ・白根ハーフマラソン大会の開催 参加申込者数1,500人以上	3,200	3,200	A	ウォーキングやカーリングは健康づくりにつながるイベントとして、定着しているが、地域行事等と重なり参加者数が伸び悩んだ。 白根ハーフマラソンは、目標を達成できた。	2	定着した健康づくりイベントをHP等でPRし参加者を増やしていきたい。 また、今後は白根ハーフマラソンの募集人数の増加に伴い、救護体制の充実等大会運営の組織強化に努める。	
	体育協会などと連携して、青少年のスポーツ大会の開催や支援を行い、スポーツ人口の底辺拡大や競技力の向上へつなげた。 第9回南区長杯青少年親善スポーツ大会 野球(H28.8.6, 11) ソフトテニス(H28.8.27) ミニバスケットボール(H28.10.15) 剣道(H28.10.9)	392	377	A	少子化の影響もあり、参加者が低年齢化しているが、目標は達成している。	2	引き続き、青少年親善スポーツ大会を実施することで青少年のスポーツ活動の支援を行う。	

区ビジョンまちづくり計画(第1次実施計画掲載事業 報告書)

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

西区

事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
		H28数値目標 予算額(単位:千円)	H28実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
西区スポーツ応援プロジェクト	区民の継続したスポーツ・運動を推進、サポートし、一人でも多くの人からスポーツ・運動の楽しさや喜びを感じてもらおうとともに、事業を通じ、区民の交流の場を創出した。	・西区CUP(学童軟式野球大会, ミニサッカーフェスタ)開催 ・運動(スポーツ)教室5回程度実施 1,700	・西区CUP(学童軟式野球大会, ミニサッカーフェスタ)開催 ・運動(スポーツ)教室9回実施 1,513	A	・学童軟式野球大会, U-8ミニサッカーフェスタ, スポーツ教室の参加者数が昨年度を上回った。 ・運動教室として新たに親子向け教室を開催した。	1	親子向け教室(テニス・マラソン)を開催することで、子どもをきっかけとした親世代のスポーツ参加を促した。	
区スポーツ振興関係団体連携事業	区スポーツ振興会・スポーツ推進委員連盟西区協議会等と協力しながら区内のスポーツ振興を図った。	実施 1,800	・スポーツ振興会への補助金交付 ・スポーツ推進委員連盟西区協議会自主研修会への協力1回, 同協議会と協力した西区ウォークの開催1回 1,800	B	・「西区ウォーク」について、スポーツ推進委員と協力して実施することができた。 ・自治協第2部会の普及啓発事業「スポーツ鬼ごっこ」について、スポーツ推進委員と協力を行い、スポーツの振興を図った。	2	スポーツ推進委員やスポーツ振興会と協力しながら実施した。	

西蒲区

事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)		
		数値目標 予算額(単位:千円)	実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
スポ柳都にしかん実践事業	各種のスポーツ・レクリエーション団体の活動支援, 各種競技のジュニア育成, 各種講習会の開催支援を目的に、スポーツ関係団体が開催する講習会や教室などへの講師派遣を行った。	派遣継続 500	講師派遣8件 420	B	レスリング, ホッケー, テニス, サッカー, 野球, 体操の各種の講習会や出前教室について講師派遣をした。	2	区内のスポーツ団体等で財政的に脆弱な団体が、実績のある講師を招いてレベルアップを図る場合や幼稚園・小学校で出前教室を開く場合など、需要が多い。 【H27まで がんばる西蒲スポーツ振興事業】	
	各種のスポーツ・レクリエーション大会の開催及び開催支援, 各種競技のジュニア育成, 西蒲区のスポーツ振興を図るため、スポーツ大会や教室を開催した。	開催継続 2,150	指導者育成講習会(野球)・スポーツ交流会(ソフトテニス)開催 1,338	B	ソフトテニスの国内トップチームの監督と選手を招き監督の講話と模擬試合を行った。	2	有名なプロチームの現役あるいはOB選手から直接指導を受けられる機会であり、ジュニア育成だけでなく指導者育成の観点からも有意義である。 【H27まで がんばる西蒲スポーツ振興事業】	
西蒲区スポーツ大会開催等事業	各種のスポーツ・レクリエーション団体の活動支援, 各種のスポーツ・レクリエーション大会の開催及び開催支援を目的に、スポーツ関係団体が開催する大会や教室に対する助成を行った。	助成継続 1,387	助成件数15件 1,222	B	体育施設使用料はじめ大会開催にかかる対象経費の1/2を補助。団体の自立性の向上が図られ補助金に頼らない団体が出てきた。	2	大会開催経費を、実績に基づいて補助するもので、スポーツ団体からの需要が多い。大会運営を工夫してもらい、補助金に頼らない運営が可能になるまでの助成を補完する。大会開催により施設の知名度向上も期待できるうえ、西蒲区独自の事業でもあることから、継続する。	
スポーツ振興会事業	スポーツ推進委員の活用を推進するため、新潟市スポーツ推進委員連盟が実施する事業や地区スポーツ振興会が開催する大会や教室へ参加し運営補助などを行った。	運営協力継続 1,500	参加人数微減 H27:4,859人 H28:4,849人 1,500	C	従来ある教室や大会のほか、ニュースポーツや子ども対象の事業を企画、開催し好評であった。	2	スポーツ推進委員の活用推進としての目的は達成している。一部では、教室や大会そのものが、マンネリや競合によって参加者減となっていることから、小さな試みから始めて育てる部分と、コアの部分の維持・拡大していくための事業選別が課題。	